

# 1. 評価結果概要表

作成日 2007年10月11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4075800310		
法人名	社会福祉法人 内野会		
事業所名	グループホーム 鴨生の里		
所在地 (電話番号)	福岡県嘉麻市鴨生693-1		(電話)0948-42-2790
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	北九州市小倉北区真鶴2-5-27		
訪問調査日	平成19年10月5日	評価確定日	平成19年10月15日

## 【情報提供票より】(平成19年9月5日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成15年7月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7	常勤6人、非常勤1人、常勤換算	6.5人

### (2)建物概要

建物形態	併設(単独)	新築/改築
建物構造	木造平屋建て 1階建ての1階～階部分	

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(100,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(無)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

### (4)利用者の概要(9月5日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名
要介護1		名	要介護2	5名	
要介護3	2名		要介護4	1名	
要介護5		名	要支援2	1名	
年齢	平均 87.3歳	最低	79歳	最高	94歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	金丸医院	西川歯科医院
---------	------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

百円ショップや商店街通りのバス停前に、家庭的な雰囲気が漂うグループホーム鴨生の里がある。駐車場横の広い畑では、かぼちゃ、サツマイモの収穫が始まっている。玄関を入ると吹き抜けの広いホールは自然の光が差し込み、利用者は取れたての野菜を洗ったり、サトイモの茎をむいて昼食の準備をしている。食堂や居間には畳の間やソファを設置し、利用者が自由に穏やかに過ごせる共用空間となっている。ホーム長や職員は、利用者が、「住み慣れた地域との寄りそい、人と人との心のよりそいを大切に、生き甲斐と安らぎのある生活を支援します」の理念のもと日々努力し、利用者、家族、地域住民から信頼されているグループホームを目指している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の調査で改善点は9件あったが新しいホーム長と職員が協力して取り組み、ほとんど改善している。今後は「成年後見制度や権利擁護などの理解と活用」「人権教育・啓発活動」「同業者との交流を通じた向上」「災害対策」などを課題として、取り組むことが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はホーム長、職員一人ひとりが取り組み、会議で職員全員が話し合い、ホーム長が取りまとめて作成している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議には利用者、家族、かかりつけ医、薬局、市職員、鴨生第一福祉部、法人副施設長等が参加し、多彩である。理念、施設概要、活動や行事をレジメで説明し、過去の行事のビデオを観賞(5分)したり、参加者からの質問や要望、情報提供を受け双方向的な会議として実施している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	利用者の近況や行事予定、状態変化などは毎月の「プロックリー通信」や家族来訪時などに報告している。また、家族の要望や意見が言いやすい雰囲気をつくり、家族が職員に安心して話せる支援体制がある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の秋祭りや清掃奉仕に参加したり、2ヶ月ごとに公民館で開催される「生き生きサロン」に利用者と職員が出席している。また、ホーム独自の秋祭り、クリスマス会などに地域の方々へ呼びかけ、参加してもらうなど交流が図られている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に根付き、信頼されるグループホームになるための理念に変更し、住み慣れた地域で人と人の寄り添いを大切にし、利用者が安らぎのある生活が送れるよう支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム長は毎日の申し送りやミーティング時、職員に理念を理解できるように説明し、実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民にホームの行事に参加してもらうよう案内したり、地域の行事や奉仕活動に積極的に参加している。また、2ヶ月に1回開催される「生き生きサロン」などに参加し、地域交流を密に図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員でそれぞれの立場で取り組み、会議を開き、話し合い、ホーム長が取りまとめて作成している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月ごとに開催し、利用者、家族、地域代表、提携病院、市職員、法人本部、グループホーム職員などで構成している。現状と対策、今後の課題などを項目ごとに概要を作成し、説明し、参加者からは質問や情報などが提供され、介護サービスの質の向上に繋がっている		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に行く時は必ず利用者を同行し、苦情などを相談している。		市主催の介護相談事業の相談員などを引き受けたり、講師派遣や市職員の研修の場所として提供するなどして、市と連携していくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在該当者がいないので家族、利用者には説明していないが、11月開催の介護講座の中の成年後見制度の研修会に参加予定である。		地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の研修を受講し、職員全員が理解し、利用者や家族に分かりやすく説明でき、パンフレットや説明書を用意することが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行する「ブロッコリー通信」を家族へ定期的に送付し、利用者一人ひとりの心身の状態については、家族来訪時や電話でその都度報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望や意見が、職員に気楽に話せるような雰囲気である。また、運営推進会議にほとんどの家族が参加し、意見や要望を出して、運営に反映している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はこの一年間一名で利用者のダメージはほとんどない。利用者の担当職員は決めているが職員全員で一人ひとりの利用者を公平に支援している。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用は性別、年齢制限はない。職員が生き生きと働きやすい職場環境になるよう配慮している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	市主催の人権教育の研修会に毎年参加し、新人研修でも人権について学習している。また、市の人権啓発活動に参加する予定がある。		
5. 人材の育成と支援					
13	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会に定期的に参加し、職員全員で共有するための内部学習会を実施している。また、介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得を積極的に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人本部と合同で、情報交換や技術向上のための会議を開催している。また、近隣に開設した小規模多機能施設の職員の研修を受け入れたり、運営推進会議に出席してもらい、交流を図っている。		地域のグループホーム協議会や全国ネットワークのグループホーム協議会などに参加し、情報交換や介護サービスの更なる質の向上を目指していくことが望まれる。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者と家族は度々ホームを見学し、利用者、職員と馴染みながら入居できる体制である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は家族の一員としてホームで仲良く暮らし、職員と利用者は心配したり、心配されたり、一緒に過ごし、学び、支えあう関係である。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の思いや意向を十分把握し、全職員で共有している。把握が困難な場合は家族から聞いた、本人がどこで、何をしたいのかを時間をかけて把握していく取り組みをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成は家族と職員全員で意見や要望を聞き出し、介護計画に反映させている。		
19	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しを実施している。また、利用者の状態変化により、その都度見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況を把握し、病院、理・美容院への送迎など、要望に応じたサービスを実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医と提携病院が近くにあるので利用者の状態に合わせて、受診している。		
22	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の指針を作成し、利用者や家族に説明している。かかりつけ医、提携病院、法人施設とも話し合い、準備をしている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳と権利を守りながら、個人記録などは人目の付かない場所に保管し、利用者のプライバシーを守るため、職員全員が守秘義務を実行している。		
24	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、利用者のその日の心身の状態を見て、自由にのんびりと過ごせるように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と食事の準備、配膳、下膳、洗い物などを、一人ひとりの能力や希望に合わせて担当している。全員が食欲旺盛で、オルゴールのCDを聴きながら楽しい食事風景である。		
26	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回(火、木、土)の13時～17時の間で支援している。出来る限り利用者の希望の時間に合わせるように工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの趣味、希望を把握し、身体機能に合わせて役割分担し、時々交代して、メリハリを付けて毎日を楽しんでいる。		
28	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は職員と散歩、畑や花壇の手入れ、百円ショップへ買い物、ドライブなど出来るだけ外で過ごす機会を増やしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は門扉、玄関の鍵はかけていない。利用者は自由に出入りし、のびのびと、穏やかに暮らしている。		
30	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員主導の避難訓練を実施している。		災害時に備え、非常食、飲料水、毛布などを備蓄し、また、消防署主導で地域住民の協力を得て、夜間を想定した避難訓練を実施することが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は母体法人の管理栄養士と相談して作成し、職員が一人ひとりの食事と水分の摂取量を記録し、健康管理を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光は吹き抜けのホールからやわらかい日差しを取り入れたり、その日の天候によって、電灯をつけて明るさを調整している。音は終日オルゴール音楽や利用者のお気に入りの懐メロなどをかけて楽しんでいる。居間の畳は居心地が良く利用者の憩いの場になっている。		
33	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広いクローゼット、車椅子対応トイレが付いている。利用者の馴染みの物を持ち込み、居心地良く暮らせる工夫がされている。		